

小児急性熱性皮膚粘膜リンパ節症候群 (Muco-Cutaneous Lymphnode Syndrome, 略称MCLS)

診断の手びき

昭和45年度厚生省医療研究助成補助金によるMCLS研究班(班長:神前章雄)作成

本症は主として4才以下の乳幼児に好発する原因不明の疾患で、その症候は以下の必発症状と参考条項とに分けられるが、必発症状(5症状)のうち、1を含む4つ以上の症状を伴うものを本症として取扱う。

A 必発症状

1. 抗生物質に不応の5日以上続く発熱
2. 両側眼球結膜の充血
3. 四肢末端の変化: ①硬性浮腫(急性期) ②掌蹠紅斑または末端紅斑(急性期) ③爪皮膚移行部からの膜様落屑(回復期)
4. 口唇、口腔所見: ①口唇の乾燥、紅潮、き裂 ②舌乳頭腫大(莓舌様変化) ③口腔、咽頭粘膜のびまん性発赤
5. 体幹の不定形発疹(ただし、水疱、痂皮は伴わない)

B 参考条項(必発症状と併せて、診断上大切である)

1. 拇指頭大以上の急性頸部リンパ節腫脹(ただし、決して化膿しない)
2. 下痢
3. 蛋白尿、尿沈渣中の白血球増多
4. 検査所見: ①核左方移動を伴う白血球増多 ②赤沈促進 ③CRP陽性など
5. 時にみられる症状: ①無菌性髄膜炎 ②軽度の黄疸、血中トランスアミナーゼ値軽度上昇 ③心炎、心筋炎 ④関節痛、関節炎
6. 4才以下に好発し、後遺症を残さず、同胞発生をみない

お 願 い

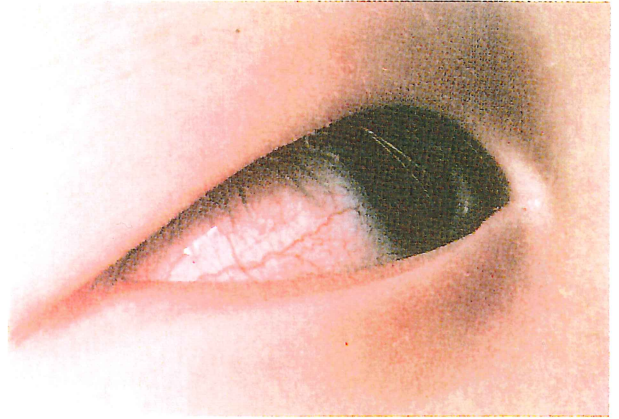
本症に合致する症例をご覧になりましたら、本研究班にご連絡下さい。

連絡先 東京都渋谷区広尾4-1-22(〒150) 日赤中央病院小児科MCLS研究班
(TEL: 400-1311)

(裏面に本症のカラー写真を掲載してあります。)



▲本症の全身像



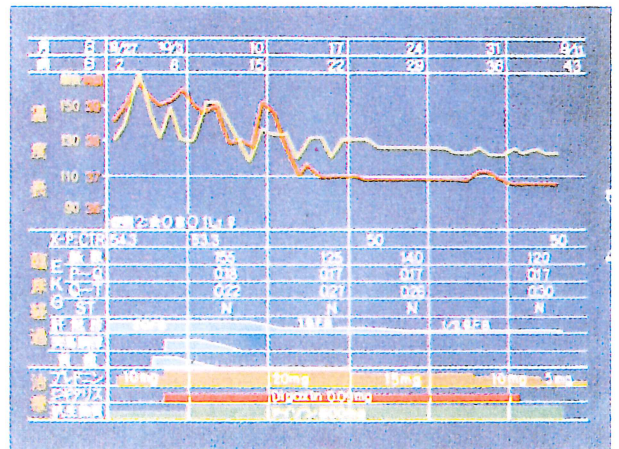
▲眼球結膜充血



▲定型的な指先の落屑



▲手掌紅斑および硬性浮腫(急性期)



▲本症の熱型(東京女子医大第2病院症例)